

地域共生ステーションづくりワークショップ

第1ステーション部会(第4回) 結果報告

1 概要

- (1) 日 時 平成25年3月9日(土) 午前10時から11時40分
- (2) 場 所 ながくてエコハウス 多目的室
- (3) 参加者 14名
傍聴者3名、報道関係者1名、事務局4名
- (4) 配布資料 別添のとおり

2 ステーションの運営について

第1ステーションのオープンに向けて、運営について話し合いを行った。
(司会進行及び書記役を参加者の中から決めて行った。)

(参加者)

これまでの間、高浜南部ふれあいプラザ(高浜市)や道泉地域交流センター(瀬戸市)、Mama's Café(多治見市)など、先進地の視察に行ってきた感じたことだが、どこも成功の要因として1人のキーマンの存在があって、その人の努力によって運営がうまくいっているということが印象に残っている。しかし、今後の課題として、そのキーマンの後継者の不在が浮かび上がっており、長久手においてどういう方法がいいのか考えなければならない。

地域における取り組みの継続性を考えると、1人のキーマンが引っ張っていくのではなく、瀬戸市の道泉地域交流センターのように地域住民等で構成された「組織」による運営が望ましいのではないかと思う。

その運営の仕組みとして例えば、「子育て」、「いきがい」、「ケア」などのテーマについて検討する部会(ワークショップ)を設けて、そこで検討された内容を月1回程度の運営会議で話し合い、地域の中で「事業」を具体化していくというようなイメージを持っている。

また、地域共生ステーションの役割としては、子育て世代やシニア世代など年代ごとに抱える課題や必要なことは違うのでそれを意識する必要があると思う。特にシニア世代にとっては定年退職後の生きがいづくりとして、社会貢献できるということが大切だと思う。

（参加者）

これまで自分も自治会活動を行ってきたが、自治会は本当に地域に貢献しているのかという疑問を持っている。自治会の活動は行事中心で、役員を受けると、それに翻弄されるため、役員をやりたい人が多くなっている。だからむしろ、趣味などの様々なグループの地域に貢献するということを含めた共通の目的を洗い出し、取り組むべき内容を考えるべきではないかと思う。

（参加者）

地域共生ステーションは、「誰のために、何をするのか？」を改めて考え直す必要があると思う。子育てなどの課題に沿って、困っている人などが参加するワークステーションがあってもいいのではないか。

（参加者）

文化の家のアートフェスティバルは実行委員会形式で行っているが、文化を広めたいとの共通の思いを持つ人たちが集まっていてボランティアでの運営がうまくいっていると思うので、そのような運営イメージもよいと思う。

（参加者）

地域共生ステーションは、これから各小学校区につくられていくので、6か所のステーションを合わせて管理運営できる中間組織があってもいいのではないか。名古屋市では財団法人が行っている例もある。

（参加者）

多くの人が、地域とのつながりを求めているような気がする。地域の人たちが気軽に集い、話し合える場づくりが大切ではないか。

（参加者）

地域共生ステーションの役割や機能を固めすぎないで、地域の課題やニーズにフレキシブルに対応していけるといいと思う。

（参加者）

地域共生ステーションの活動内容、テーマに関して、最初にでていた世代の違いはそれほど分けなくてもいいのではないかと思う。

（参加者）

全てのテーマの根底には、まず地域の安全・安心（防犯・防災）があり、重要なテーマだと思う。子どもの見守り活動等もあるが、だんだんメンバーが減ってきている状況であり、特に若い人の参加が少ない。

（参加者）

今まであった既存の組織がうまく機能していないために、地域共生ステーションのような場が求められていると思う。既存の組織も含めた、新たな枠組みが必要ではないか。地域共生ステーションは、様々な個人、グループが交わる「交差点」のような場所であり、そこでの出会いから何か新しい動きが生まれると思う。

（参加者）

自治会のような既存組織を活用した運営体制を考えた方が、効率的で確実ではないか。

（事務局）

地域共生ステーションは、オープンしたらそれで終わりではなく、どのようにするか考え、つくり、使いながら、また考えて、つくっていくといった行程を繰り返すイメージをもっており、さまざまな人がずっと関わっていける場になればと考えています。

（参加者）

最初から大きなことをやろうとしても無理だと思うので、小さなことから、少しずつ始めて、徐々に取り組みを広げていけると良いのではないかな。

（参加者）

地域の課題も変わっていくし、それに合わせて地域共生ステーションの役割も変わっていくと思う。

（参加者）

これまで1年間ワークショップを続けてきているが、地域のほとんどの人は地域共生ステーションのことを知らないし、興味を持っていない。

これまでのように市役所の会議室ではなく、まず、地域で集まって話し合うことが必要だと思う。自治会連合会や市役所などの既存の組織ではなく、地域共生ステーションの運営を考える個人として呼びかけてやっていきたい。

（参加者）

呼びかけるにあたっては、やはり、呼びかけ人となる人が必要だと思う。そして地域のいろんな人が集まって、話し合うことで、新たな動きが出てくると思う。

（参加者）

それでは、来月4月からは、地域の中で参加の呼びかけを行って、地域の集会所などで、第1ステーションの運営について話し合う場を定期的に設けていったらどうか。

（参加者）

第1ステーション部会は、これで一つの区切りになると思うが、西小校区以外の方は、その話し合いに参加することは可能か。

地域共生ステーションがオープンした場合、他の小学校区の方は使えるのか。

（参加者）

第1ステーションにかかる話し合いは、基本的には西小校区の人が中心となるが、情報共有という意味もあり、オブザーバーとしての参加は可能だと思う。

地域共生ステーション（第1ステーション）の使い方については、今後の話し合いにおいてルールづくりをしていくことになると思う。

（事務局）

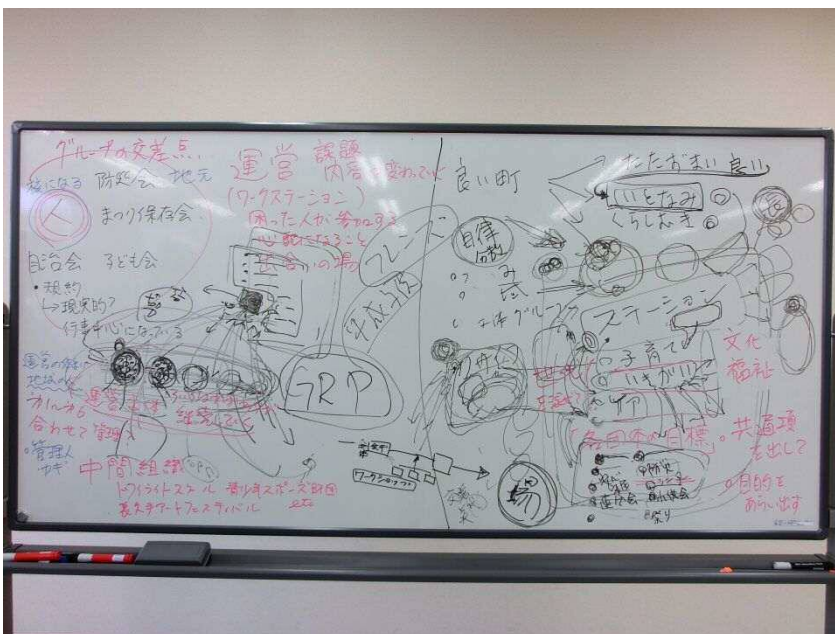
第1ステーション部会については、この形で行うのは、今回をもって最後として、今後は、地域で参加の呼びかけを行い、地域のみなさんによる話し合いに移行していくことにします。

事務局としては、地域の話し合いのサポートなど、地域共生ステーション（第1ステーション）のオープンに向けた運営体制づくりを支援していきます。

【ワークショップの模様】



意見交換



話し合いの結果



レイアウトの確認

地域共生ステーションづくりワークショップ

第1ステーション部会(第4回)

次 第

日時：平成25年3月9日(土)

午前10時から11時30分まで

場所：ながくてエコハウス 多目的室

1 ステーションの運営について

2 その他

■次回の第1ステーション部会(第5回)は

____月 ____日() : ____ から _____にて開催

★「考える」から「つくる」へ

